

**神戸国際港都建設事業
学園南土地区画整理事業
(神戸学園南地区の整備)に係る
供用後の事後調査報告書の概要について
(平成28年度)**

平成29年6月

独立行政法人都市再生機構西日本支社

**神戸国際港都建設事業 学園南土地区画整理事業（神戸学園南地区の整備）に係る
供用後の事後調査報告書（平成 28 年度）の概要について**

1 対象事業の名称、規模及び内容

(1) 名称

神戸国際港都建設事業 学園南土地区画整理事業（神戸学園南地区の整備）

(2) 規模

事業区域面積：約 108.4ha

(3) 内容

ア 種類

土地区画整理事業

イ 位置

神戸市垂水区舞多間東 1～3 丁目、舞多間西 1～8 丁目

2 平成 28 年度事後調査の実施内容

| 環境要素 | 環境調査 | 施設調査 |
|-------|---------------|---------------------|
| 大気質 | — | 交通量及び走行速度 |
| 騒音 | — | 道路交通騒音 |
| 振動 | — | 道路交通振動 |
| 植物 | 移植対象種等の生育管理調査 | 造成緑地、造成法面の緑化の状況 |
| 動物 | 移植対象種等の生息管理調査 | ミミガが移植地としてビオトープ池の状況 |
| 地球温暖化 | — | 造成緑地、造成法面の緑化の状況 |

3 平成 28 年度事後調査結果の概要

(1) 大気質（概要書 P. 22～31）

| 調査項目 | 調査時期 | 調査地点 | 調査結果 | 評価 |
|-----------|--|--|-------------------------------------|---|
| 交通量及び走行速度 | 平日調査： 平成 28 年 4 月 休日調査： 平成 28 年 5 月 | St. A： 学園多間線 St. B： 舞子多間線 St. C： 新規調査地点 St. D： 新規調査地点 (計 4 地点) | 交通量は予測結果を上回ることはなく、ほぼ同等か少ない台数となっていた。 | 交通量が予測結果を上回っていないことから、評価書に記載した環境保全目標を満足するものと考えられる。 |

(2) 騒音 (概要書 P. 32~35)

| 調査項目 | 調査時期 | 調査地点 | 調査結果 | 評価 |
|------------|--|--|---------------------------|--|
| 道路交通 騒音 | 平日調査： 平成 28 年 4 月 休日調査： 平成 28 年 5 月 | St. A： 学園多聞線 St. B： 舞子多聞線 (計 2 地点) | 両地点とも、全ての時間帯で環境基準を満足していた。 | 両地点ともに概ね予測結果の範囲内にあり、環境基準値以下となっていることから、評価書に記載した環境保全目標を満足するものと考えられる。 |

(3) 振動 (概要書 P. 36~39)

| 調査項目 | 調査時期 | 調査地点 | 調査結果 | 評価 |
|------------|--|--|--|--|
| 道路交通 振動 | 平日調査： 平成 28 年 4 月 休日調査： 平成 28 年 5 月 | St. A： 学園多聞線 St. B： 舞子多聞線 (計 2 地点) | いずれの時間帯においても要請限度を大きく下回っていた。しかし、St. B の夜間については平日・休日ともに予測結果を 1dB 上回っていた。 | St. B の夜間については予測結果を 1dB 上回る結果となったが、予測条件に比べて交通量は減少しており、本事業による影響ではないと考えられる。また、いずれの地点も評価書に記載した環境保全目標値を大きく下回っており、10%の人が感じるとされる振動レベル (55dB) も大きく下回っていることから、環境保全目標を満足するものと考えられる。 |

(4) 植物

ア 環境調査 (概要書 P. 40~53)

| 調査項目 | 調査時期 | 調査地点 | 調査結果 | 評価 |
|---------------|----------------------|-------|--|---|
| 移植対象種等の生育管理調査 | 平成 28 年 6 月、9 月の 2 回 | 学園南緑地 | 自生地に生育している移植対象種等のウキサ群落、ヒメガマ群落、ヒメカンアオイの 3 種の生育を確認した。過年度までに移植した種のうち、カキソ、キキョウ、ヒメカンアオイ、ミズギボウシ、ヌマガヤ、ミズキノシタの 6 種の生育を確認し、トウカイモウセンゴケは確認できなかった。ヒメヌカグサについては平成 22 年に消失している。 | トウカイモウセンゴケについては平成 26 年度に開花が確認されていたが、平成 28 年度は生育を確認できなかった。今後は、主に地元住民により組織された一般社団法人舞多聞エコ倶楽部が中心となって、学園南緑地の環境保全を実施していくことが決定しており、既に事業者からこれまでの取組みや調査手法等の引継ぎ・技術の教育等が完了し保全活動を開始している。以上のとおり、貴重な植物の保全について可能な限り事業影響の低減が図られているものと考えられる。 |

※トウカイモウセンゴケについては、舞多聞エコ倶楽部が事業区域内の自生個体から種子を採取し、学園南緑地で増殖活動を実施している。

イ 施設調査 (概要書 P. 52～53)

| 調査項目 | 調査時期 | 調査地点 | 調査結果 | 評価 |
|-----------------|-------------|-------|---------------------------------------|---|
| 造成緑地、造成法面の緑化の状況 | 平成 28 年 9 月 | 学園南緑地 | 造成緑地に植栽した樹木が生長し、まとまりのある緑の景観を形成してきていた。 | 造成緑地、造成法面において、生態系・生物多様性・景観の保全及び地球温暖化の防止に配慮して多種類の樹木を植栽し、その植栽木が生長してまとまった緑の景観を形成してきている。 以上のとおり、貴重な植物の保全について可能な限り事業影響の低減が図られているものと考えられる。 |

(5) 動物

ア 環境調査 (概要書 P. 54～66)

| 調査項目 | 調査時期 | 調査地点 | 調査結果 | 評価 |
|---------------|----------------------------------|-------|--|--|
| 移植対象種等の生息管理調査 | 平成 28 年 6 月、9 月、平成 29 年 3 月の 3 回 | 学園南緑地 | シミダガカの確認個体数は年度により増減するが、毎年度確認できていることから定着した可能性が極めて高い。 カミサンショウウオの確認数も毎年増減するが、継続的に繁殖を確認できている。 | 必要に応じて適切な管理を検討・実施しており、可能な限り事業影響の低減が図られていると考えられる。 |

イ 施設調査 (概要書 P. 65～66)

| 調査項目 | 調査時期 | 調査地点 | 調査結果 | 評価 |
|---------------------|-------------|--------------|--|--|
| シミダガカ移植地としてビートル池の状況 | 平成 28 年 6 月 | 学園南緑地内のビートル池 | 形状や水位は安定している。また、マツメ等の沈水植物が生育しており、シミダガカの生息空間として良好な状態であった。 | ビートル池はシミダガカの生息空間として良好な状態が維持されており、カミサンショウウオの産卵場等としても機能していることから、可能な限り事業影響の低減が図られているものと考えられる。 |

(6) 地球温暖化 (概要書 P. 67～77)

| 調査項目 | 調査時期 | 調査地点 | 調査結果 | 評価 |
|-----------------|-----------------|-----------------------------|--|---|
| 造成緑地、造成法面の緑化の状況 | 平成 28 年 7 月、9 月 | 事業区域内の造成緑地、造成法面 (計 9 地点) | 造成緑地、造成法面に植栽した樹木が生長し、まとまりのある緑の景観を形成してきていた。 | 事業区域内の造成緑地、造成法面において計画通り緑化対策が実施され、多種類の植栽種が生長しており、緑の保全・創造等により地球温暖化の防止に寄与しているものと考えられる。 |